

## 【南九州地区納税貯蓄組合連合会長賞】

共済

天草市立本渡中学校

三年 川上 零

私の学校生活は、大好きな部活動である吹奏楽団を中心回っている。この間の吹奏楽コンクールでは熊本支部大会を勝ち上がり、福岡で開催される九州大会に出場することが決まった。今年も去年と同様、目指すは全国大会だ。夏休み中は毎日、仲間達と練習に明け暮れている。部活動は私にとって、心の支えだ。しかし壁となっているものがある。夏休みの宿題だ。私達の部の決め事として、大会の十日前には全ての宿題を提出しなければ参加することはできない。悩んでいたのは、この『税の作文』だった。

学校の租税教室で「税金は社会を支えるために使われる」と学んだが、話が難しく実感がわからなかった。どこか遠い世界の出来事で大人になつてからするものだと思った。それを題材にして作文を書かなければならないとは。ブツブツと母にそう言うと、笑いながら『九州吹奏楽コンクール出場予算書』と書かれたプリントをわたされた。

「ここに奨励金が八十二万五千円って書いてあるけど大会の演奏登録者に対して一人一万五千円分、天草市からお金をしてくれるのね。これ、税金から出るとよ。」

私はとても驚いた。学校で使う道具や活動にかかる費用は、部費や保護者が負担してまかなわれていると思っていた。でも、確かに楽器購入、メンテナンス、ホテル練習の交通費とは別に、勝ち上がると大会遠征の旅費も必要となり、想像以上にたくさんのお金がかかる。部費だけでは到底足りない金額だ。その一部に税金が使われていたとは。私は初めて税金に感謝した。目標に向かって毎日当たり前のように練習できるのも、天草に住む人達の納めた税金によるもので、自分達の知らない所で私達の部活を支えてくれている大人達がいるなんて。今は受け取った税金を部活の結果でしか返せないが、支えてもらつた税金を決して無駄にはしない。今以上に一音一音精一杯感謝の想いも込めて奏でよう。

中学校の部活動にまで届いているのだから、税金は私の知らないところでもきっとたくさんの人達の生活を支えているのだと思う。いつか私も社会に出て働くようになつた時、今度は税金を納める側になる。その時は徴収されることを不満に思うのではなく、これまで自分が支えてもらつた分の恩返しだと思って貢献したい。自分の納めた税金が誰かの支えになり、幸せの手助けをする原動力になるのだから。税金は、誰かの夢や努力、生活をそつと後押ししてくれる、みんなでつくる支え合いの力だ。たとえ見えなくとも、誰かに私達の生活を豊かにする支援をしてくれている。今回部活動を通して、こうした仕組みを知ることが出来て本当によかったです。そしていつか、自分自身が社会を支える一人になれるよう、これからも学びを深めていきたい。